

教材名		『ふるさと山梨』の章・ページ	
山梨が誇る産業		第3章⑨ P. 74～77	
教科（領域）等	社会科	学年（分野）	2年生地理的分野

1. 教材のねらいと概要








山梨県の産業の概要を理解し、県全体や住んでいる地域の産業を捉えさせたい。






- ・第1次産業では、過去と現代の特徴を統計から比較し、現状と課題をみつめ、解決するための方策を考察させる。
- ・第2次、第3次産業では、身近な地域の産業や特産物を調べ、地域の特色や課題を明らかにさせる。
- ・水と産業では、当たり前にある水が産業になくはならないものであることを理解させる。また、地域や産業の発展に不可欠である、今後の水ビジネスの可能性を探らせる。

2. 活用例

教科名等	社会科	単元(題材)名等	資源や産業の特色 日本 の諸地域・中部地方
活用場面		活用のポイント	
<ul style="list-style-type: none"> ・日本の産業の学習で、産業別就業者数の割合の推移から県の産業の動向を学習する。 ・中部地方の学習で、山梨県の産業の特色とその変化を学習する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・産業別就業者の割合の推移をみて、日本の動向と比較しながら、山梨県の傾向を理解させる。 ・図表を元にして、山梨の産業の特色を理解させる。 ・調べ学習やインタビューを通して、身近な地域の産業やこれからの山梨の産業を考察させる。 	
			時間 20～50分 (家庭学習も可)

3. キャラクターの投げかけの意図と解答例

ページ	投げかけの言葉	意図	解答例
P. 74 	産業別就業者の割合は、どうなっているのでしょうか。全国の動向と比較してみましょう。	産業別就業者の割合の推移から、産業の概要を押さえるようにさせる。	全国も山梨県の動向も、第1次産業の割合は年々低くなり、第3次産業の割合は高まっている。平成27年の割合は、第1次産業；7.2%、第2次産業；27.9%、第3次産業；63.8%である。分類不能の職業があるため、合計100%にならない。
P. 74 	グラフから、山梨県の農業はどのように変化してきたのか説明してみましょう。増えたものや減ったものは何でしょう。その変化の理由を考えてみましょう。	主要農作物の生産額の割合を過去と比較し、農業の変化と特徴を捉えさせる。農業生産額の変化にも注目させたい。	昭和30年は、食用作物や蚕繭が多く、平成27年は、果樹は過半数となった。化学繊維の普及などにより養蚕業は衰退した。養蚕に関する統計は、平成16年より廃止となった。果樹栽培は、観光やワインと結びついて盛んになってきた。※訂正 平成27年度の生産額は、887億7700万円である。
P. 75 	果樹栽培は扇状地で盛んに行われています。果樹栽培と扇状地の関係を説明してみましょう。	内陸性の気候、盆地の自然環境、扇状地に関心を持たせる。水はけのよい扇状地の特徴を理解できるようにさせる。	扇状地は河川が運んだ土砂が堆積し、水はけがよい。果樹は水はけのよい場所で栽培しやすい。また、盆地周辺は降水量が少なく、日照時間が長いことも果樹栽培に適している。
P. 75 	昔は果樹より桑畑が多かったんだね。どうして桑畑は少なくなったのかな。	かつて盛んだった養蚕業について関心を持たせる。	アジアなどの新興国における繊維産業の発展により、国内の繊維産業は衰退した。県内でさかんだった養蚕業も衰退したことで、桑畑は減少していった。
P. 75 	山梨県はぶどう、ももの生産量が日本一だけど、これからも日本一を守っていけるのかな。	全国の動向から、第1次産業に携わる人は減少している。これからの農業のあり方に関心を持たせる。	農業人口や耕地面積の減少、高齢化などの農業問題から果樹の生産量は減少することが予想される。また、若者の農業やワインづくりへの参入も話題にし、山梨の果樹を考察させたい。
P. 75 	ぶどうやももは、どこの国へ輸出されているのかな。	ぶどうやワインなど、山梨の特産物をブランド化し、産業の振興につなげていることに関心を持たせる。	山梨県産の果実の輸出先は香港(67%)、台湾(25%)、シンガポール(5%)となっている(平成27年)。輸出に関しては、新鮮さの保持や検疫などが課題となっている。
P. 75 	山梨の農業の抱える課題は何でしょうか。高齢化、耕作放棄地の拡大…。課題をどのように解決していけばよいのでしょうか。	山梨を含め、全国的な第1次産業の課題を考えさせる。都市への人口集中と過疎、産業構造の変化も関連させ、農山村のあり方を考えさせる。	課題として、農業従事者の高齢化、後継者不足、耕作放棄地の拡大、生産量の減少などが挙げられる。これらは全国的な課題でもある。農業のもつさまざまな機能・利点、魅力的な農業とは何かなどを考えたい。

P. 76 	あなたの住む地域にはどんな工場や伝統産業があるか、調べてみましょう。	身近な地域の伝統産業や製造業、まちづくりに関心を持たせる。	地域の産業、特色などを調べ、その内容が分かると良い。
P. 76 	自然環境や伝統を生かしている地域の特産物や産業を調べ、まとめてみましょう。	地域のよさや課題を理解させる。身近な地域にある特産物、伝統産業や工場、まちづくりに関心をもたせる。	地域の特産物や産業について調べたり、インタビューしたりして、住んでいる地域への関心が高まるようにしたい。
P. 77 	水って、どこにでもあるものだと思うけど、どうして「水」が「産業」に関係するのだろう。	水の重要性、ありがたさを改めて実感させたい。山梨は雨が比較的少ないのに、水に関するビジネスに力を入れて取り組んでいることに関心を持たせたい。	農業や特産品、工業や観光、文化とも水が密接に関係していることに気付く。
P. 77 	ジビエって何かな？ 野生獣が増えると、「水」にどんな悪影響が起こるのかな。	野生鳥獣が増加している原因の一つに、農林業の衰退や農林業への関心の薄さなどが挙げられる。身近な自然や農林業のあり方に関心を持たせる。	ジビエとは、狩猟によって捕獲された野生鳥獣やその食肉のことである。野生鳥獣の増加により、稚樹が食べられ、樹皮がはがされるなどの森林被害がみられる。森林環境の荒廃は、水環境の悪化へつながると考えられる。
P. 77 	「山梨の水」を国内外の人たちにアピールする文章を日本語と英語でつくってみましょう。これから、どのような「水ビジネス」が考えられるのでしょうか。また、今後の企業誘致の課題は何でしょうか。	人間にとって、水は不可欠なものである。水を利用して産業が発展したことに気付かせたい。	企業の役割としては、地域住民との交流を核として、地域へ貢献していくことが重要である。企業誘致することで、地域の活性化を図るとともに、歴史や伝統が生かしたまちづくりが求められる。人々のより良い生活、自然環境の保全などを考慮した企業経営が求められる。

4. 写真・資料の補説

先端技術産業（電子顕微鏡の部品）

P. 76、画像は北杜市に本社がある株式会社ミラプロが製造した電子顕微鏡の部品で、この開発により、顕微鏡の稼働時間の延長と小型化に成功した。本企業の開発する真空技術が日本の科学技術の発展に大きく貢献しており、素粒子などの物質を解明する研究開発、ヤスパーカミオカンデといった国家的なプロジェクトにも参画している企業である。

5. 参考文献・関連施設等

参考文献名	発行所	著者・编者	発行年
やまなし県のあらまし 2016	山梨県広聴広報課	山梨県広聴広報課	2016
統計から見たやまなし 平成27年度	企画県民部統計調査課	企画県民部統計調査課	2016
山梨県農政ポケット資料集	山梨県農政部	山梨県農政部	2016
参考ホームページ			
山梨公式ホームページ → 県政情報・統計 → 「やまなしの統計」 → 「新着情報」または「最近公表した調査結果」または「統計データバンク」に各種統計がある。			
山梨県公式ホームページ → しごと・産業 → 「農業・水産業」に各種統計あります。農業以外のものも多数ある。			
統計情報：農林水産省 → 「農林業センサス」を含め、果樹や野菜など農産物に関する各種統計がある。			
総務省統計局 → 「国勢調査」を含め、その他各種統計がある。			